

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0875
施設名	千川保育園
施設所在地	武蔵野市八幡町1-4-13
法人名	公益財団法人武蔵野市子ども協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

栽培（3歳児クラス）

<テーマの設定理由>

園庭に落ちている種や花をごちそう作りのトッピングにして遊んでいた。その後、「まめ」の絵本を読んだ際、豆の種類や育ちに子どもが興味を示していたので「栽培」をテーマに探求をしていきたいことからこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

1. 種まきをする（6月）
2. ラディッシュとあさがおの発芽の様子を見る（6月）
3. ラディッシュの発見・観察（7月）
4. ラディッシュを収穫し、調理してもらい食べる（7月）
5. あさがおの花や葉の周りにある黒い粒を発見する（7月～8月）
6. あさがおの葉やつるに付いている虫を見る（9月）
7. あさがおで色水あそびをし、色の変化を楽しむ（8月～10月）
8. 他の植物でも色が出るのか、戸外へ植物探しに出かける（11月）
9. みつけた自然物で色水遊びをし、クエン酸も使用しながら色やにおいの違いや変化を楽しむ（11月）
10. あさがおの種を虫めがねで観察する（12月）
11. 収穫後、土に根っこがあることに気が付き、他にどんな根っこがあるのか戸外へ探しに出かける（1月）
12. 次の栽培へむけて土を綺麗にする（1月）
13. 虫めがねへの興味から集めてきたものを電子顕微鏡で観察する。（2月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【素材・道具】

プランター、土、じょうろ、野菜の絵本、虫めがね、あさがおの花、ビニール袋、トレー、すり鉢、茶こし、クリアカップ、チャック付ポリ袋、クエン酸、あさがおの種、まるみえダブル観察器、電子顕微鏡、タライ、バケツ

【環境設定】

- ・じっくりと観察できるようにしたり、子どもの声を拾いやすいようにしたりするために人数を半分に分けたり、4人から5人のグループで行ったりと、活動によって人数の調整をした。
- ・より自然物が豊かな場所に出かけ、全員が何かを見つけられるような環境を整えた。
- ・プランターを置く間隔を広めにとって観察しやすいようにしたり、材料がとりやすいよう実や草をあらかじめ切ったりなど、取り組みがしやすい環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・種まき

人差し指で種を入れる穴を作り、順番に種を植えた。「こうやってやるんだよ」と友だちに教える姿もあり、植えた後は水やりも楽しんだ。

・ラディッシュとあさがおの発芽の様子を見る

水やりを楽しみながら、発芽していることに気がつき観察をする。

・ラディッシュの発見・観察

水やりにの時に、ラディッシュがあることに気がつき、「ピンクのだんご」「大根のにおいがする」など、感じたことを声に出して喜んでいた。

・あさがおの花や葉の周りにある黒い粒を発見する。

水やりをしている時に、葉に付いている黒い粒を発見した。やがてあちこちにあることに気が付き、「何だろう」と興味、関心を広げる。子どもから「何かのうんち」というワードが出始め、やがてプランターの下からあおむしを発見する。黒い粒=あおむしのうんち、と繋がりが始まり、それからは水やりと虫との出会いも楽しみにしていた。

・あさがおで色水あそびをし、色の変化を楽しむ

育てたあさがおの花を使って色水遊びを楽しんだ。最初は保育者がビニール袋に水と花を入れて揉む方法を伝えていったが、力の加減で色の違いができることを子ども自身が発見していた。クエン酸の使い方を子どもに伝え、色水に混ぜてさらなる変化を楽しんでいた。

・他の植物でも色が出るのか、戸外へ植物探しに出かける

探索を楽しみながら植物を探す。それぞれ自分が持ち帰りたいものを集め、観察をする。

・植物や虫を虫めがねや電子顕微鏡で観察する

植物や虫を顕微鏡で観察する。虫めがねでは気が付かなかった模様、色など、新たな発見を楽しんでいた。またあさがおの種の殻を取り、殻や種の形、におい、殻を割った時の音を楽しんでいた。

・収穫後、土に根っこがあることに気が付き、他にどんな根っこがあるのか戸外へ探しに出かける

雑草を引き抜き、あさがをの根っことの違いなどを友だちと共有しながら楽しんでいた。

・次の栽培へむけて土を綺麗にする

種を埋めるために土を綺麗にすることを子どもに伝え、残っている根やごみを拾って土を綺麗にする。石やゴミがなくなると土の感触も変わり、その変化も楽しんでいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・黒い粒を見つけると、あちらこちらに粒があることに気が付き、「ここにもある！」と興味や関心が広がり、発見したい意欲が高まっていった。

・色水遊びでは、揉むと色が出るということが分かると、力を加減しながらやり方を工夫し「お花をちょっと入れるとこの色、いっぱい入れると濃くなるよ」と、伝えていた。また匂いの変化も楽しみ、友だち同士で匂いを嗅ぎ合いながら「いいにおい」「くさい！」と、喜んでいた。

・土作りでは、土の感触を楽しんでおり、「つちってふわふわだね」「やわらかくてきもちがいいね」と、心地よい表情でずっと土に触れる姿があった。大人もその感触と一緒に楽しみ「ずっと触っていたいね」と言うと「せんせいもずっとさわっていいよ～」と伝えていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 取り組みの中で疑問や視点が一人ひとり異なることが分かり、大人も楽しさを感じた。
- ・ 観察していく中でどこに注目してほしいのかを考えて働きかけをすることが大切だと感じた。
- ・ 色水作りでは、回数を重ねる度に子ども自信がやり方を工夫し、体験や経験から知り得ることが多いことを学んだ。

- ・ 視野が広がっていくと、大人も気が付かないところまで目を向け、探求心が深まっていくのを感じた。「これはどうかな」と、次々と試し、好奇心が膨らんでいく様子に大人も楽しんだ。